

千葉市感染症発生動向調査情報

2016年 第37週 (9/12-9/18) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		37週	36週	35週	34週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	16	18	18	17
	眼科	4	5	5	5
	インフルエンザ*	24	28	28	27
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	9/12-9/18	9/5-9/11	8/29-9/4	8/22-8/28	9/5-9/11
			37週	36週	35週	34週	36週
小児科	RSウイルス感染症		11 0.69	17 0.94	18 1.00	6 0.35	185 1.39
	咽頭結膜熱		2 0.13	2 0.11	0 0.00	1 0.06	19 0.14
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	35 2.19	38 2.11	29 1.61	21 1.24	329 2.47
	感染性胃腸炎		78 4.88	82 4.56	75 4.17	50 2.94	429 3.23
	水痘		3 0.19	11 0.61	3 0.17	6 0.35	43 0.32
	手足口病		19 1.19	38 2.11	27 1.50	18 1.06	211 1.59
	伝染性紅斑		1 0.06	3 0.17	3 0.17	2 0.12	10 0.08
	突発性発しん		10 0.63	22 1.22	11 0.61	13 0.76	86 0.65
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.01
	ヘルパンギーナ		29 1.81	49 2.72	53 2.94	28 1.65	172 1.29
	流行性耳下腺炎	○	8 0.50	5 0.28	5 0.28	4 0.24	66 0.50
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		2 0.08	8 0.29	1 0.04	0 0.00	22 0.10
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		4 1.00	3 0.60	6 1.20	2 0.40	32 0.91
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		1 1.00	0 0.00	2 2.00	0 0.00	6 0.67
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	病原体等の検出等	腸管出血性大腸菌感染症	女性	10歳未満	病原体の検出及びベロ毒素の確認
結核	女性	30歳代	IGRA検査				
結核	女性	60歳代	病理学的特徴的所見	カルバペネム腸内細菌科細菌感染症	女性	70歳代	菌の検出、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定
E型肝炎	男性	30歳代	血清IgA抗体の検出				
E型肝炎	女性	60歳代	血清IgA抗体の検出	-	-	-	-

・第37週は、結核3件(183)、腸管出血性大腸菌感染症1件(13)、E型肝炎2件(5)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(9)の報告があった。

※ ()内は2016年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第37週のコメント

＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週から増加し2.19となった。過去10年の同時期と比べると最多。

＜流行性耳下腺炎＞前週から増加し0.50となった。過去10年の同時期と比べると多め。

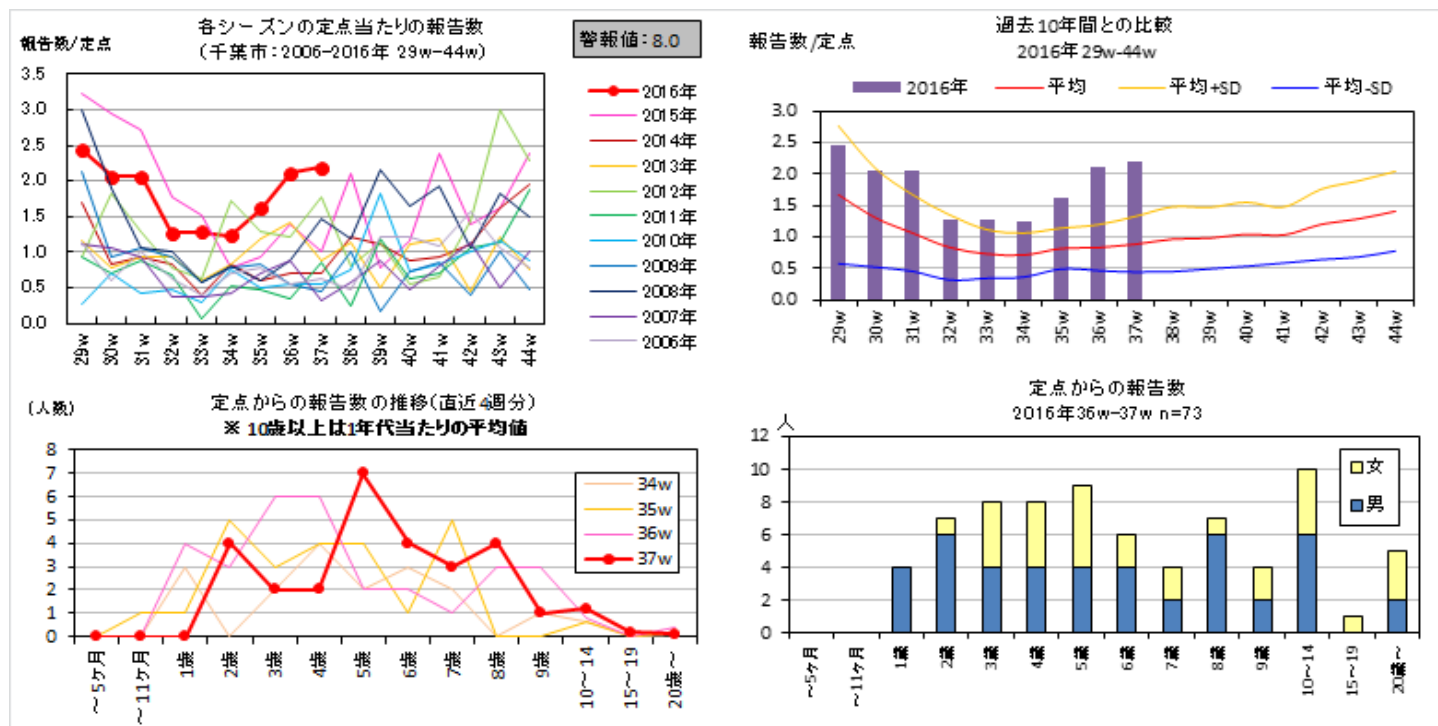
■ トピック ■

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第36週は過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、福岡県、鳥取県、千葉県順に多く報告されています。

千葉市の第37週は前週より増加し2.19となり、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は、緑区(4.75/定点)で最多となっており、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。

今シーズンである2016年第36週～第37週の報告数(n=73)によると、性別では男性が60.3%(44名)、女性が39.7%(29名)で、年齢階級別では10歳代前半(13.7%:10名)、5歳(12.3%:9名)、3歳及び4歳(共に11.0%:8名)の順に多くなっています。



<流行性耳下腺炎>

全国レベルの第36週は過去9年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、新潟県、富山県、熊本県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。

千葉市では第34週からほぼ連続して増加しており、第37週は0.50となり、過去10年の同時期と比べると多めとなりました。区別の発生状況は、花見川区(2.0/定点)で最多となっており、同区の10歳代前半で最も多く発生報告がありました。

2016年第1週から第37週までの報告数(n=346)によると、性別では男性が57.2%(198名)、女性が42.8%(148名)で、年齢階級別では5歳(15.0%:52名)、6歳(13.3%:46名)、4歳(11.8%:41名)の順に多くなっています。

